マギーが見た南京

南京の記憶をつなぐ2019
ドキュメンタリー上映/講演/トーク

12/1

資料代
前売り1000円
／当日1200円
（学生500円）

■ドキュメンタリー映画
『マギー牧師が見た南京大虐殺』
（江蘇電視台制作）50 分
■講演とトーク
『南京から現在のメディア状況を照らす』
（朝日新聞記者　下地毅さん）
トーク：下地さんと現代と過去を語る
■12 月1 日（日）13：30 開場 14：00 開演
■場所：エルおおさか・南館５Ｆホール
（地下鉄・京阪「天満橋」西へ５分）

主催:南京の記憶をつなぐ会　TEL090-8125-1757

「南京の記憶をつなぐ 2019」への参加《よびかけ》

この半年頻繁にメディアに見られたのは韓国の徴用工賠償問題、「慰安婦」問題にからむ嫌韓をあおるメディアの姿でした。安倍政権は長期に居座り、この期間に日本の政治が急速に右傾化していることは確かです。政権閣僚の約 4 分の 3 が各種の右翼団体に名を連ね、政治家や歴史修正主義者による歴史歪曲がまかり通っています。学校で使用する歴史や公民教科書も捻じ曲げられ、道徳教育が画一的に推し進められようとしている現状です。しかし逆風に流されるわけにはいきません。

私たちは、過去の歴史を正面から見据え、同じ過ちを繰り返さないために、日本軍による中国侵略の象徴である「南京大虐殺」の事実を明らかにしていこうと幅広い市民の連携で実践してきました。さらに調査に基づいた歴史の証明を積み重ね、同じ過ちを繰り返さぬよう、市民の皆さんにほんとうの歴史と民衆が被った被害の痛みを伝えようと、力を注いでいます。今年も新たに市民による市民のための「南京の記憶をつなぐ 2019」の市民集会を企画しています。ぜひみなさんのご来場を願っています！

「南京の記憶をつなぐ 2019」ドキュメンタリー上映・講演会・トークの見どころですー

●新作『マギー牧師が見た南京大虐殺』　―　江蘇電視台制作ドキュメンタリー50 分

江蘇電視台南京ドキュメンタリーチームが南京大虐殺の歴史事実を追った作品を完成しました。今回日本初公開の同ドキュメンタリーは、マギー牧師と生命を賭して撮影した映像が主人公です。この映像は東京裁判と南京軍事法廷で、大虐殺の証拠として上映されました。マギーは、1938 年 2 月 3 月にも殺人は行われていたと具体的に映像の説明を記しています。しかしその映像はまだ見つかりません。中国系アメリカ人のシャオ・ズーピン氏は、未知の映像を追い続けます。マギーが撮影した同時期に東宝撮影班が「穏やかな南京」を撮り、事実はどこにあるかを対比しています。日本語字幕の構成と制作は「銘心会南京」。

●「『南京』から現代のメディア状況を照らす」―朝日新聞記者下地毅さん

下地記者は沖縄出身。南京大虐殺をはじめとして日本軍の侵略が与えた被害、沖縄の米軍基地、教育への権力の介入、憲法など幅広く取材しています。

「現代メディアの最大の問題点は、歴史の視点を失っていることだ。それは、加害という負の歴史において顕著に表れている。現在の日本は憲法によって『表現の自由』が保障されているのに、メディアはなぜ歴史と向きあわないのか。事実を書かないのか。戦前の社会にあった報道統制を『言い訳』とすることはもはやできないのに……」

そう問いかける下地さんが報道の現場から今日の問題点と課題を語ります。

●トーク　下地毅さん✖松岡環さん

会場から寄せられた質問に答える形で、二人のトークを展開します。現代の問題点を報じ、講演した下地毅さんと、南京大虐殺の実態を明らかにするために加害の元兵士と中国大陸の被害者を一貫して調査してきた松岡環さんが、過去と現代の問題点を重ねて話しあいます。

「私たちはよびかけます！」賛同団体や賛同人になってください！（10 月 1 日現在）

■賛同団体：NPO 大阪府日本中国友好協会有志、大阪城狛犬会、南京の映画をみる会しが、日中平和研究会、日本中国友好協会大阪府連合会、銘心会南京、

■賛同人：岡田光司、志水博子、千葉征慶、中沢浩二、古橋雅夫、森田徹

■主催：南京の記憶をつなぐ会　TEL090-8125-1757